

2023年度 自己点検・自己評価 最終評価

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
I 学校運営	1	学校の教育理念・目的を定め、それを実現するための組織目標を策定しているか。	①組織目標は、教育理念・目標を踏まえて策定し、法人目標との整合性がある	3	組織目標は、前年度の評価を活かして策定され、教育委員会などで共有を行った。今年度から組織目標達成のツールとしてBSC（バランス・スコアカード）を導入し、より具体的・計画的に目標達成に向かうことができた。一方、BSCの理解に教員間での差があったため、説明やトレーニングの機会を設け、BSCの導入効果を高めていく必要がある。
			②組織目標は、学校の特徴や前年度評価を生かして策定している		
			③中・長期の組織目標も策定している		
			④組織目標を職員が理解している		
	2	コンプライアンスを重視した学校運営がなされているか。	①法令や倫理を遵守し、適切な学校運営がなされている	3	法令に基づいた運営が行われ、学校評価はホームページで公表されている。また昨年度と比較して人権への配慮が向上したとの意見あり。一方、ラダーに応じた業務配分とフォロー体制が十分に整備されていないとの意見もあり、業務配分の見直しとフォロー体制の強化を図るための施策を講じ、環境の改善を目指していく。
			②個人情報の保護について十分な対策を講じている		
			③外部委員を含めて学校運営評価を実施し、結果を公表している		
			④学生や職員等の人権に十分配慮している		
	3	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか。	①運営組織や意思決定の仕組みが明確化され、有効に機能している	3	運営組織や意思決定の仕組みは明確化され、領域や学年の担当間での連携は密に行われている。共有シートなどのツールを活用し、昨年度より情報共有を図る努力を行いスコアが向上した。しかし、タイムリーの情報共有の不十分さや組織的な連携の不足の指摘もあり、チーム力発揮の強化・整備を促進していく必要がある。
			②組織の課題を職員が共有し、解決に向けて協力して対応する仕組みがある		
			③組織内でタイムリーな情報共有を図っている		
			④担当間の連携・調整、コミュニケーションを円滑に行っている		
II 教育課程・教育活動	4	ディプロマポリシーを明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか	①看護師として身に付けておくべき資質を、知識・技術・態度の側面から明文化されている。	3	ディプロマポリシーは、学生便覧にも明示され、学生への説明、各講義室への掲示など、学生が意識しやすい環境が整っている。ワークショップやFD（ファカルティ・ディベロップメント）でも共有され、改善が行われた。一方、各学年のアウトカムにおいて、2022年度のカリキュラム改正に合わせ見直しがされていないため、実態との齟齬が生じている。次年度は各学年アウトカムの見直しが必要である。
			②ディプロマポリシーを学生に説明する機会を設けている		
			③ディプロマポリシーの到達状況を教員間で確認する機会がある		
			④ディプロマポリシーに照らし、卒業時の到達度を評価している		
	5	教育内容は教育理念・教育目標との一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか	①教員全員で教育課程を検討する場を設けている	3	授業評価や試験結果を用いて各科目の評価を行っている。形成評価の導入やオンデマンド学習の継続、医学部合同のPBL（問題基盤型学習）の実施など独自の取り組みも行われている。FD（ファカルティ・ディベロップメント）を通じて教育課程の検討も進められた。次年度以降も、適宜、検討機会を設け、継続的なブラッシュアップが必要である。
			②時代の要請に応じて、必要時に修正している		
			③学校の独自性が盛り込まれている		
			④教育課程の評価を行い結果を次年度に反映させている		
	6	体系的なカリキュラム運営が行われているか	①授業計画(シラバス)を作成し、公表している	4	シラバスを作成し、公表している。授業評価アンケートは全ての科目で実施し、次年度へ活かしている。アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生の理解が促進するように工夫している。
			②効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している		
			③授業評価アンケートを実施し、講義・実習指導等の改善に役立っている		
			④授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善している		
	7	評価について公平性・妥当性が保たれているか	①評価基準を公表している	3	評価基準と評価方法は授業前に提示され、シラバスで公表されている。実習では、学生と指導者と教員の3者で評価を行い、学生の自己評価を踏まえ、納得性に配慮している。試験後は、各領域で評価妥当性を検討し、来年度の評価方法変更に向けて学生への周知も行っている。評価基準と方法の明確化と学生への説明を継続し、評価の質の維持・向上を図っていく。
			②評価方法及び評価結果を学生に説明・明示している		
			③評価の妥当性について検討する場がある		
			④学生の納得性を高める努力をしている		
	8	実習時の安全体制が整っているか。	①医療安全教育を体系的に実施している	4	医療安全教育が実施され、基礎的な安全教育も授業を通じて行われている。実習施設と連携し、インシデント事例では速やかな対応と振り返りを行っている。またインシデント事例の共有を促進することで、より高い安全意識を育成につなげる。感染対策においては、保健管理センターと連携し十分に行われている。
			②実習における感染予防対策、職業感染予防対策を実施している		
			③実習施設と協議し、安全な実習環境の整備に努めている		
			④実習を振り返りながら安全意識の向上を図っている		

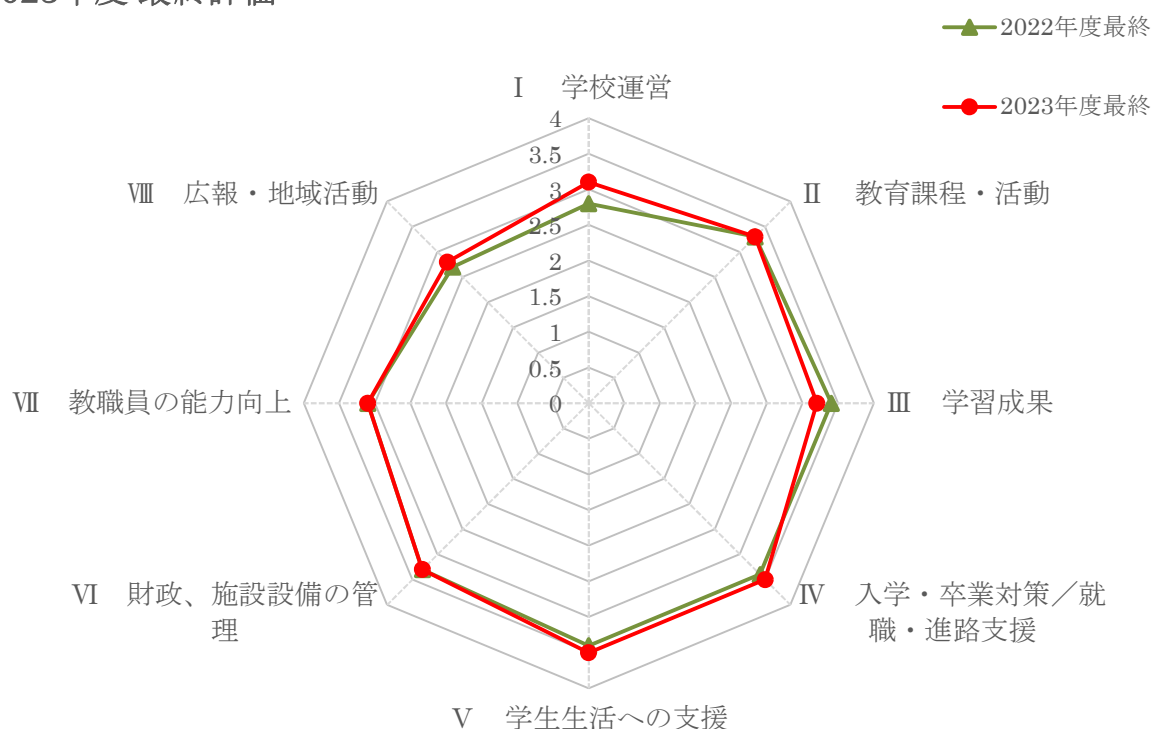
大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
Ⅲ 学習成果	9	学生に単位取得にむけた支援を実施しているか	①学生の単位取得上、困難となる要因を分析している	3	評価方法の変更により、学習支援が必要な学生に対して複数の教員が連携し、以前より個別対応を充実させることができた。一方で、変更後の評価の運用において、教員間での差や、補修時間の短さ・単位取得困難な学生への効果的対応などの課題がある。評価運用の理解促進、早期対応の強化、補修時間の見直し、そして他学年との情報共有などを強化し、教育の質の向上と学生支援の強化が必要である。
			②学生が再試験・再実習となった理由を自己分析するように指導している		
			③学生の自己分析結果に基づき対応策を学生と検討し、指導している		
			④成績不振者を対象として学習支援や学習会等を実施している		
	10	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか	①1年次から3年間を通して計画的に国家試験対策に取り組んでいる	4	1年次から国家試験対策が行われ、合格率は平均を上回り、高い合格率を維持している。3年次では成績の振るわない学生へ独自の工夫をしている。一方、学年ごとの目標や方法など、学校としての統一性に欠ける点の指摘があり、3年間を見据えた上での系統的な対策の見直しを図り、国家試験合格者のさらなる向上と、対策の質の改善を目指す。
			②国試の合格率が全国平均を上回っている		
			③国試の合格率が100%である		
			⑥学校独自の工夫をしている		
	11	退学率の低減を図っているか	①再試験・再実習を持つ学生への継続的な支援を行っている。	3	担当教員とは定期的な面談や相談対応が行われている。補修学習の継続的な支援も行われている。しかし、基礎学習力や自己学習力の低下により、自己学習力を強化するための支援体制を整えることが課題である。退学者は全学生の1.5%であった。
			②定期の個別面談で状況を把握し適宜相談に応じている		
			③退学者の状況を把握・分析している		
			④退学者は全学生の3%以下である		
Ⅳ 入学・卒業対策／就職・進路支援	12	入学応募者確保に努めているか	①各高等学校等に出向き学校案内を行っている	4	学生募集委員会を中心に、高校訪問や業者主催の説明会にも積極的に参加し、学校案内や見学の個別対応も行っている。学校説明会は、対面とオンラインの両者を実施し、内容は在校生体験談や予備校講師講座など独自の工夫を行っている。国家試験合格率や進学状況を公表するなどの広報活動を行っている。一方、志願者は減少傾向であり、さらなる広報活動や説明会の内容や方法を充実させていく必要がある。
			②就職や国家試験合、進学状況を公表している		
			③学校説明会以外に個別の学校見学等に対応している		
			④学校説明会では、独自の工夫がある		
	13	就職・進路指導に取り組んでいるか。	①就職・進学支援について、計画的に取り組んでいる	3	キャリア支援室と教員の連携により、1年次から計画的にキャリア支援が組み込まれ、3年生には就職試験前の個別対応も行っている。一方、附属病院昭和大学系列病院への就職推進や個別対応としてのキャリア支援室との連携に課題があり、具体的な対策を講じて行く必要がある。
			②就職・進学支援について、教員とキャリア支援間で連携した支援を行っている		
			③就職希望者の就職率を高めるように努めている		
			④学生の特性を生かすように、個別の支援を行っている		
	14	卒業生への支援を行っているか	①卒業生への就業継続への支援事業を行っている	4	卒業生への支援は、キャリア支援室での体制が整っている。卒業生も図書室を利用することが可能である。
			②卒業生も図書室を利用することが可能である		
			③既卒者、中途退職者に対し就職相談にのるシステムがある		
Ⅴ 学生生活への支援	15	健康管理面、経済面、精神的面からの学業継続支援体制が整っているか。	①奨学金、授業料減免など、経済的支援について情報を提供し相談に応じている	4	健康管理面では健康診断後の指導・相談も含め、保健管理センターとの連携が図られている。ガイダンスではカウンセラーの存在と役割が説明され、メンタルに不調がある場合、学生相談室や保健管理センターへの相談推奨など対応している。奨学金などについてもガイダンスを通じ、周知を図っている。
			②カウンセラーの存在、役割を学生に周知している		
			③健康診断後の指導・相談体制がある。		
			④個々の学生の状況に応じた支援を行っている		
	16	学生の自主的な活動を支援しているか	①いぶき祭の活動を支援する体制がある	4	・いぶき祭は1・2年生のいぶき祭委員の学生が中心で活動しており、学年担当教員は相談窓口となり、支援、調整を行っている。 ・大学の学生課と連携し、看護専門学生が大学の部活・サークル活動に参加できるように情報提供を行っている。
			②サークル活動など自主的な活動の場を設けることを支援している		
	17	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	①学生の意見や要望を聞く場を設け意見箱を設置している	4	学年主任やクラス担任教員が学生の意見を聞き、タイムリーに情報共有や対応がされている。また、校長を含む学生代表との懇談会やご意見箱の設置にて、学生の意見を聞く機会を設け、必要時学生の意見をもとに改善されている。
			②意見要望への回答を必要に応じて公開している		
			③意見や要望に基づいた改善を行っている		

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
Ⅵ 財政、施設設備の管理	18	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか	①年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている	3	計画的に予算組を行い、事業執行に努めている。しかし、年度途中の経過についての情報提供や組織的な経費の節減は手薄になっており、対策が必要である。
			②計画的に設備品の充実などを行っている		
			③組織的に経費の節減対策を行っている		
	19	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。	①総合防災訓練等を年1回実施している	3	1,2年生の学生、寮生については、防災訓練を実施した。食料・飲料水の備蓄はあるが、トイレや寝具に関しては不足があるため、早急に対策が必要である。
			②防犯・交通安全対策を行っている		
			③危機管理マニュアルを作成し、随時見直している		
			④学生用の災害時の食糧・飲料水、簡易トイレや寝具を備蓄している		
	20	施設・設備及び教材が整い、安心、安全が確保されているか	① 耐震基準をクリアしている	3	耐震基準はクリアしており、指定規則に則った施設・設備・教材をそろえている。施設・設備等の定期的な点検をおこなっているが、教材などは古くなっているものもあるため、計画的に買い替え、安心・安全性の確保につなげる必要がある。
			②指定規則に則った施設・設備・教材がある		
			③教材・設備等の安全性を確保するための工夫・改善を行っている		
			④教材・設備等の安心・安全のための、定期的な点検・整備を行っている。		
	21	学生のための福利厚生施設・設備は整っているか	①学生のための福利厚生施設・設備がある	4	福利厚生施設・設備は整っており、図書室は自由に利用できる。自習用教室や実習室など自主的に学修できる環境を整えている。
			②図書室は利用しやすく学生に十分活用されている		
			③学生が自主的に看護技術練習をするための場と教材が整っている		
Ⅶ 教職員の能力向上	22	教員は、看護教育力向上に努めているか	①看護教育力向上のために研鑽の取組を行っている(学会参加など)	3	学会参加の機会が設けられている。授業参観・公開授業を開催し、意見交換を通して教員の能力向上に努めている。研究活動には計画的に取り組めていないため、課題である。
			②授業参観・授業公開により能力向上を図っている		
			③臨床看護研修や研究活動に計画的に取り組んでいる		
	23	教員の能力向上に対する取組を支援する環境があるか。	①学校の抱えている課題を踏まえた研修を行っている	3	教育研修委員会や教育推進室が中心となり、課題となっているテーマや教員の要望などに沿って、FDなどの教員研修を設けている。また、二水会を領域ごとの交流とし、情報交換の機会が増え、より有意義な意見交換となっている。
			②二水会(他校との交流会)を通して、情報共有できるしくみがある		
			③教員の要望を踏まえた研修をおこなっている		
			④学会、研修等に参加した成果を他の教員に還元している		
Ⅷ 広報・地域活動	24	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。	①前年度の評価を踏まえた広報計画を年度初頭に策定している	3	ホームページは頻回に更新しており、オンラインでの学校説明会も実施し、参加者を増やす工夫をしている。しかし、広報活動に広がりがなく、計画的な実施が手薄になっている。受験生の確保という点においても、広報活動の効果を高めるための新たな取り組みを早急に検討することが優先事項である。
			②ホームページを年6回程度更新している		
			③学校説明会参加者を増やすための工夫を図っている		
			④学校独自の広報活動に努めている		
	25	地域社会の一員として、貢献しているか	①地域のボランティア活動への参加を促している	2	コロナ後、地域交流の機会が減少し、現在、地域との関わりは「いぶき祭」のみとなっている。地域の行事などに教職員・学生ともに積極的に参加の機会をつくり、地域社会との連携を深めていく必要がある。
			②学校独自の地域社会活動に努めている		

2023 年度自己点検・自己評価総括

2023年度 最終評価

*評価の視点：1-不適切 2-やや不適切 3-ほぼ適切 4-適切



評価項目	2023 年度 最終評価	2022 年度 最終評価
I 学校運営	3.1	2.8
II 教育課程・活動	3.3	3.3
III 学習成果	3.2	3.4
IV 入学・卒業対策／ 就職・進路支援	3.5	3.4
V 学生生活への支援	3.5	3.4
VI 財政、施設設備の管理	3.3	3.3
VII 教職員の能力向上	3.1	3.1
VIII 広報・地域活動	2.8	2.7
平均	3.2	3.2

総括：

1. 平均スコアは、昨年度と同じであるが、4つの項目でスコアが向上した。特に、昨年度、スコアが低く不適切評価であった「学校運営」は、組織目標の共通認識などによって適切評価に改善された。また「広報・地域活動」もホームページの更新頻度の向上やいぶき祭や近隣小学生への授業協力などで、2年ぶりにスコアが向上した。
2. 「学習成果」が昨年より低下しているが、理由としては、今年度からの新しい評価方法における補修のあり方に関する改善の意見が多くあることや国試合格率100%を満たさなかったことが影響している。
3. 次年度は、より効果的な補修のあり方の検討を行い、「学習成果」の向上を目指すと共に、「実習担当教員」制度の導入も開始されるため、更なる「学校運営」の強化を図っていく必要がある。